

下村かつゆき

ミニ集会のご報告



これまでに黒潮町内約50カ所に於きました、ミニ集会を開催させて頂きました。

ご参加頂きました皆さんから、多数の貴重なご意見を賜りました。その中の代表的なご意見を皆さんにもぜひ、お知らせしたいと思います。

ミニ集会参加者の皆さまから寄せられたご意見

- ええ話、わかる話、もっと聞きたい、みんなに聞かせたい話やった。
- 1時間も話を聞いたとは思えん。じきに終わってしもうた感じがする。
- リーフレットやチラシの配布だけじゃいかん。今日はスクリーン(プロジェクタ)と顔を直接見ながら話が聞けて、大満足やった。
- 何か相談したい事があつても、どこの誰に相談して良いか、わからんかった。今日初めて、身近に相談できる人がおる事がわかつた。安心した。
- このミニ集会は地域の課題も出し合える場になり、本当に良かった。
- 今まで、このような後援会の集会には何度も参加したが、こんな内容の集会には生まれて初めて参加した。非常にわかりやすく、「かつゆき」が話のうまいことに驚いた。
(どうもありがとうございます！)

住民の皆さまから多く寄せられた要望

- これからも、こんな県政報告会や対話集会のようなものを、必ず開いて頂きたい。
- こうした集会は、ぜひ、黒潮町議の皆さんにもやってもらいたい。

このほかにも、意見ではあいませんが
様々な出来事がありました。

- 下村の報告が終り、意見交換をためらう雰囲気の中、1人の参加者が話の口火を切ると、次々に全員発言となり非常に盛り上がる意見交換会となりました。
- 参加者のなかには、複数の方が何度もこのミニ集会に参加してくれました。
そこで「同じような話になりますけど大丈夫ですか?」と確認したところ、「はい、大丈夫。もう前のがは、忘れたけん…」 んっ?(苦笑!)
- ミニ集会が終わっても拍手鳴り止まず、席を立つ人もなく、そのうち、そのままコーヒーを入れてくれて、第2次懇談会へ突入!
- ミニ集会の終了後に、会の参加者を代表して、大変ご丁寧なお礼のご挨拶を頂き、益永後援会長ともども恐縮至極。

●ミニ集会を通じて感じた事

この集会を通じて、県議会議員が住民の皆さんにとって決して近い存在でないことがわかりました。私が目指す議員像は全く逆です。

「課題を解決するためには、対話しかない！」をモットーに、住民により近い議員像を目指し、皆さまが今イメージしている県議会議員像を払しょくできるよう頑張っていきたいと思います。

「住民参加の開かれた県政を！」が下村かつゆきの基本姿勢です。

- ① 人口減対策(若者への就労支援含む)
 - ② 高齢者への支援策
(介護施設不足や一人暮らしの見守りなど)
 - ③ 農林漁家の後継者問題
(1次産業維持と経営を守る施策)
 - ④ 集落活動維持支援(活動困難の克服)
 - ⑤ 1次産品の高値販売戦略の立案と支援
- 他にも多数のご要望がありましたが、これからしっかり考え行動していきます！



■下村かつゆき プロフィール

- ・昭和40年生まれ。現在49歳。3男1女の父
- ・国立高知工業高等専門学校(高知高専)電気工学科卒業(第20期卒)
- ・卒業後、NECシステム建設株式会社 入社。
- ・南米のコロンビアを皮切りに北中南米を中心に、東南アジア、中国等、約10年間海外を中心とした勤務に従事する。
NECシステム建設株式会社退社後、東京でベンチャー企業等の会社の経営に携わる。
- ・妻の病気と死去により、故郷の黒潮町に帰郷。
- ・四万十市で会社勤務した後再婚、黒潮町で起業。
- ・平成15年 「道の駅ビオスおおがた」の立ち上げから運営にまで携わる。
- ・平成16年 大方町議会初当選
- ・平成18年 黒潮町議会初当選
- ・議会では、総務常任委員長、産業建設常任委員長、議会選任監査委員、副議長等の要職を歴任。
- ・平成25年 国立高知大学大学院入学
- ・約1年半にわたり、朝倉キャンパスまで通学
(現在は今春まで休学中)
- ・主に、これからまちづくりに欠かせない「地域協働」について研究中